

豊明市行政評価制度「施策」評価票

施策評価票番号

38

1 施策の概要

1-1 施策の名称	文化財の保護			基本施策コード	4 1 3
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	生涯学習課	評価票作成者 生涯学習課長 近藤雅彦
1-3 総合計画における施策の体系	節	教育文化「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			
	項	生涯学習の推進			
1-4 施策の目的	過去の歴史、文化の積み重ねのうえに、100年後も耐え得る豊明市の今を創る。				

	平成22年度評価 (前期の成果)	平成27年度評価 (全期間の成果)
担当課評価	A	
総合評価	A	

施策評価の判定基準

- A : 施策の目的を効果的に達成しているため継続する
- B : 施策推進の実手法等に改善の必要がある

1-5 総合計画における基本成果指標	基本成果指標名	前期(平成18年度～平成22年度)			全期間(平成23年度～平成27年度)			指標の定義
		目標値(単位)	実績値(単位)	達成率(%)	目標値(単位)	実績値(単位)	達成率(%)	
	文化財関係講座の参加者数	200(人)	242(人)	121(%)	300(人)			文化財関係講座の参加者数

2 施策の担当課による評価結果

評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	既存事業の構成や優先順位の考え方、新規事業の必要性の考え方	施策の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	文化財保護のための指導者育成が急務である。	文化財の保護が優先であり、そのために資料の整理等を行う。	ナガバノイシモチソウ、自然環境保護が順調である。
平成19年度	保護委員を含め、指導者の確保が急務である。	文化財の保護が最優先ではあるが、過去に収集した資料の整理も重要である。	少ない予算の中、イシモチソウ自生地、沓掛城址公園及び国指定史跡地の保存管理は良好に行えた。
平成20年度	この10年間は、豊明市史の発刊に重点が置かれてきたが、郷土の文化、歴史を市民が実感する施策が必要である。	数年前から自然観察講座として、公開してきた大狭間湿地の一般公開について検討を要する。	沓掛城址展を実施し、郷土の歴史について学習する機会を提供した。
平成21年度	ナガバノイシモチソウの種を保存するための施策検討が必要である。	郷土の文化財への関心を高めるために、市指定文化財めぐりツアーの実施を検討する(屋外市指定文化財に限る)。	ボランティア団体と大狭間湿地の保護活動について協定を締結し、大狭間湿地を一般公開した。
平成22年度	郷土の歴史や文化財を保護・継承するボランティアの発掘や育成の仕組みづくりが必要。郷土の文化財を市民に理解してもらうために、講座や一般公開を進める。保存会に、講師を務めてもらう。民具の整理を行ったことで、今後の展示に活用することができる。		
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

